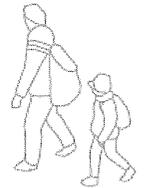


# 1

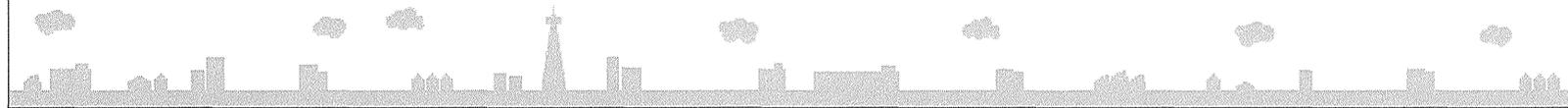
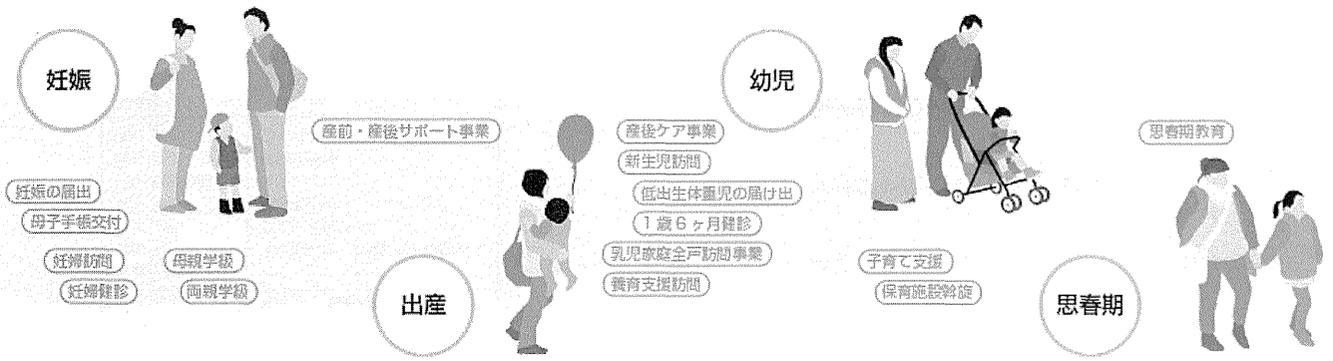
## はじめに



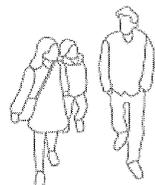
### 1. 産前・産後を支えるソーシャル・キャピタル

この手引書は全国の市町村に向けて、「ソーシャル・キャピタルってなに？」というところから、「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」について、また「産後ケア」についても解りやすく、事例を交え紹介していきたいと思います。

個から家族そして地域へ。健康なまちづくりの実現にむけ、地域の母子保健の課題のひとつである産前産後ケアに着目し、地域での産み育てに関わるソーシャル・キャピタルの醸成の促進に、この手引書が少しでも全国の市町村のお役に立てればと思います。



## 2

ソーシャル・キャピタル  
とは？

ソーシャル・キャピタルとは簡単にいえば、

- ・ 人間関係、組織間の関係のとりやすさ作りやすさ
- ・ 社会全体の人間関係の豊かさ

の事を言います。

ソーシャル・キャピタルが貧しい



人との関係があまり豊かではない

ソーシャル・キャピタルが豊か



人との関係が豊か

地域のソーシャル・キャピタルが豊かであると、

- ・ 子どもの教育成果の向上
- ・ 近隣の治安の向上
- ・ 地域経済の発展
- ・ 地域住民の健康状態の向上
- ・ 政治的コミットメントの拡大

というメリットが有ると言われています。

### ① ソーシャル・キャピタルの概念

ソーシャル・キャピタルとは人々の協働行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」と言った社会組織の特徴。(アメリカの政治学者、ロバート・帕特ナムの定義)。また、ハニファン (Hanifan : 1916) によると、ソーシャル・キャピタルは比喩的な言葉であり、不動産・資産・金銭などには関係なく、人々の日常生活に欠かせず感知されるもの、すなわち、個人ないし家族から成る社会的な集団の構成員相互の善意、友情、共感、社交などのことである。と言われている。

# 3

## 母子保健の拠点が ソーシャル・キャピタルの 醸成を担う理由



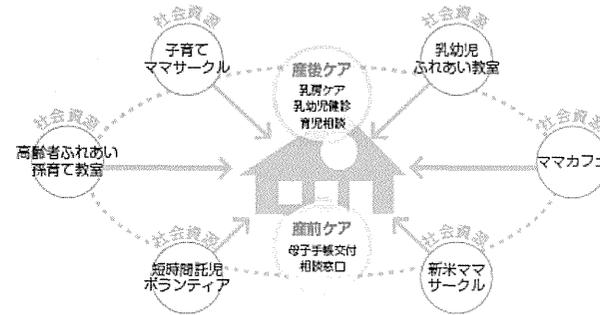
### 1. 愛着形成

人間関係の始まりである母子の愛着形成を健全に育むには、産前から産後にかけて心身ともにサポートをすることが必要です。それによって、子どもの他者に対する安心感、安全感をもつことが出来、ソーシャル・キャピタル醸成の基礎である、「他者への信頼」を持てるきっかけとなると考えられます。



### 2. 産前・産後ケア

産後の大変な時期に「産前・産後ケア施設」などにおいて、母親に寄り添い、いつでも相談できる場（頼られる場）となることで、母親の育児に対する不安を軽減させ、虐待防止にもつながります。産後の母親がもっとも不安を感じる時期は退院直後から3か月ごろまで、この時期の支援がとて重要になります。



### 3. 地域への架け橋

「産前・産後ケア施設」などの拠点を、地域の社会資源にスペースを提供することで、母子が地域社会に参加できるきっかけを与えることが出来、ソーシャル・キャピタル醸成につながると考えられます。

「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」は個々の母親を医療モデルで支援する狭義のケアではなく、地域との関係性を再構築し、ソーシャル・キャピタルを醸成する生活モデルとしての新たな概念と言えます。

#### 4. 「日本版ネウボラ」という形

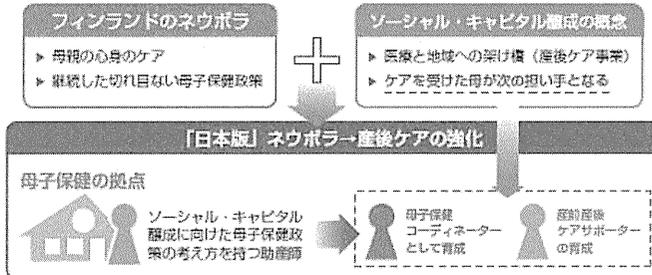
最近、「ネウボラ」という言葉を耳にする機会が増えました。これはフィンランドの妊娠・出産・子育てをワンストップで支援する制度のことです。わが国においても「日本版ネウボラ」を目指そうとする動きがあります。

ここでは、日本版ネウボラの基本的構想を紹介、次の項からは現在日本で行われているネウボラの2つの自治体の事例を紹介していきます。

##### ネウボラの基本概要

1. 地域における包括的支援体制の構築
2. 相談支援サービス（利用者支援事業）
3. 「包括的・継続的な支援プラン」（妊娠・出産・子育て）
4. 産前・産後支援サービス

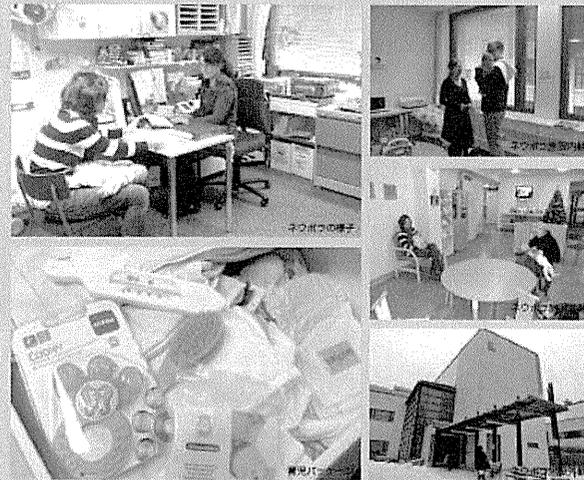
##### 「日本型ネウボラ」の特徴



#### ① ネウボラとは？

フィンランド語で「アドバイスの場」を意味する支援制度。福祉先進国のフィンランドでは各地にネウボラという施設があり出産前の健診から子どもが学校に行くまでのすべての相談や支援をしています。

日本でも最近、このシステムに着目し、内閣府によるモデル事業が展開されはじまりました。



# 4

## なばり 三重県名張市の事例



### 1. はじめに

名張市では「子ども3人目プロジェクト」の3本柱の1つとして「名張版ネウボラ」をスタート。母子保健と地域づくりを融合させ、多機能、多部門、さまざまな世代を巻き込んだオール名張の体制で取り組みを推進しています。

名張版ネウボラとは「産み育てるにやさしいまち 'なばり'」をめざした妊娠・出産育児の切れ目ない相談・支援の場であり、システムです。名張版ネウボラは、地域診断により課題と強みを整理し、地域の強みである既存資源（ひと・もの・しくみ）の力を引き出し、コーディネートすることで必要とする支援を住民とともに生み出そうとするものです。特徴は、15の地域づくり組織による主体的なまちづくり活動です。また、健康支援室の保健師は、業務担当制と地域担当制を併用して母子保健、成人保健や地域の健康づくりの取り組みをしています。地域包括支援センターのプランテである「まちの保健室」15カ所の職員とともに健康づくりを展開することを重視しています。

### 2. 名張版ネウボラの考え方

名張版ネウボラとは産み育てるにやさしいまち 'なばり' をめざした妊娠・出産育児の切れ目ない相談・支援の場であり、システムです

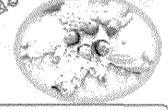
#### 身近なところでの寄り添い

まちの保健室で、妊娠段階から、出産・育児まで継続的に相談支援を行う人材として職員をチャイルドパートナーと位置づけます。チャイルドパートナーと子ども支援センターやマイ保育ステーション（地域子育て支援拠点事業）や保育園が連携しながら母子保健コーディネーター（保健師や助産師）とともに、保健・福祉のサービス（支援）と利用者、人と人をつ結びつげ、全ての妊娠婦及び乳幼児の保護者に対する併進型の予防的支援ができる環境を整えます。



#### 産前産後ケアの体制

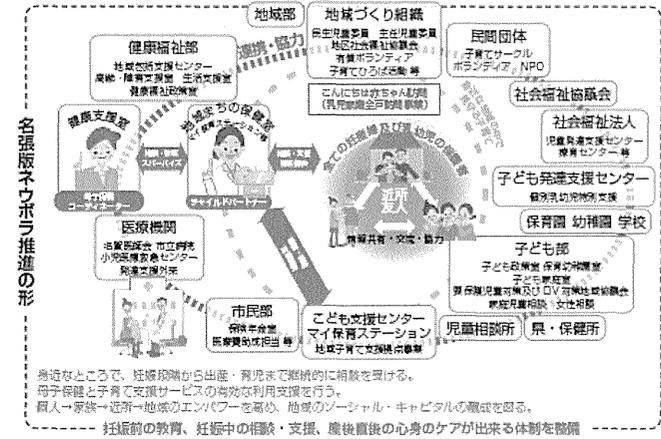
従来の母子保健事業や子育て支援事業では補えられなかった産前産後の不安に対し、妊娠前からの教育、妊娠中からの相談・支援、産後直後の心身のケアができる体制を医療機関・地域づくり組織等多様な主体によって整備します。



個人一家庭一地域のエンパワーを高め、地域のソーシャル・キャピタル醸成を図る

名張版ネウボラは3つの切れ目ない支援のネットワーク

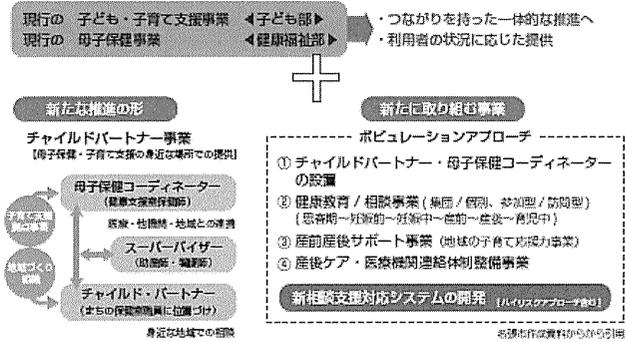
1. 妊娠前から出産・育児期までの時をつなぐ
2. 人と人・人と地域をつなぐ
3. 保健・医療・福祉のしくみ（人）をつなぐ



身近なところで、妊娠段階から出産・育児まで継続的に相談を受ける。母子保健と子育て支援サービスの有効な利用支援を行う。個人一家庭一近所一地域一地域のエンパワーを高め、地域のソーシャル・キャピタルの醸成を図る。妊娠前の教育、妊娠中の相談・支援、産後直後の心身のケアが出来る体制を整備

名張市保健科から引用

### 3. 名張版ネウボラ事業内容



名張市の母子保健の課題
① 多様なニーズ・背景（社会的・生物的） 妊婦の高齢化、幅広い年齢、経済困窮
② 妊娠期の不安 3人目妊娠の不安
③ 行政サービスの妊娠中産後の希薄さ 医療機関のみのかかわりと費用助成中心・ ニーズ未把握
④ ハイリスクアプローチが中心となり、潜在する ニーズが把握できていない 虐待の予防や精神保健、低出生体重・疾患等 の個別支援の増加に伴う後追い支援 ポピュレーションアプローチの必要性
⑤ 母子保健事業と子育て支援事業 一体的な推進、状況に応じた連携の必要性

名張市の強み
① 地域づくり組織の自治力 15の組織
② 地域の支え合いのしくみ 見守り・地域活動への参加支援・子育てひろ ば・有償ボランティアなど
③ まちの保健室のしくみ
④ 保健師の地域に根ざした保健予防活動 地域づくり組織と推進する健康づくり事業
⑤ 医療と福祉との連携 支援が必要な場合の密な連携・小児科医との 連携
⑥ 主任児童委員（地域住民）による 乳児家庭全戸訪問事業のしくみとしかけ
⑦ 市長の「生涯現役のまち」産み育てるにや さいまちへの情熱、保健師活動への理解

※課題作成資料から引用

### 4. 名張版ネウボラの実際

名張版ネウボラは、さまざまな事業の実施主体に、「妊娠・出産・育児」の各時期を通して切れ目が生じがちだった従来の取り組みから、「人と人・人と地域をつなぐ」「保健・医療・福祉のしくみ（人）、をつなぐ」ことに意識転換することです。

まず、3つの方法で課題を整理しました。

- ① 母子保健と子育て部門の協働 市の母子保健と子育て支援が部署を超え課題の整理
- ② 健康づくりワールドカフェの開催 15の組織で地域の健康データの共有
- ③ 産前産後のニーズ聞き取り 母子保健の既存事業や新規事業でニーズの聞き取り

これにより、名張市の課題と強みが抽出され、名張版ネウボラのベースがまとまり、携わる人たちに理解が得られるよう可視化し共有しました。そして部署を超えた取り組みを開始。行政内の部署間がまず連携しなければ、地域や子育て世帯に必要なサービスは存在しても届けることが困難だからです。

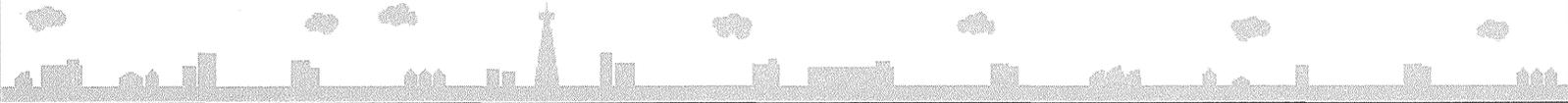
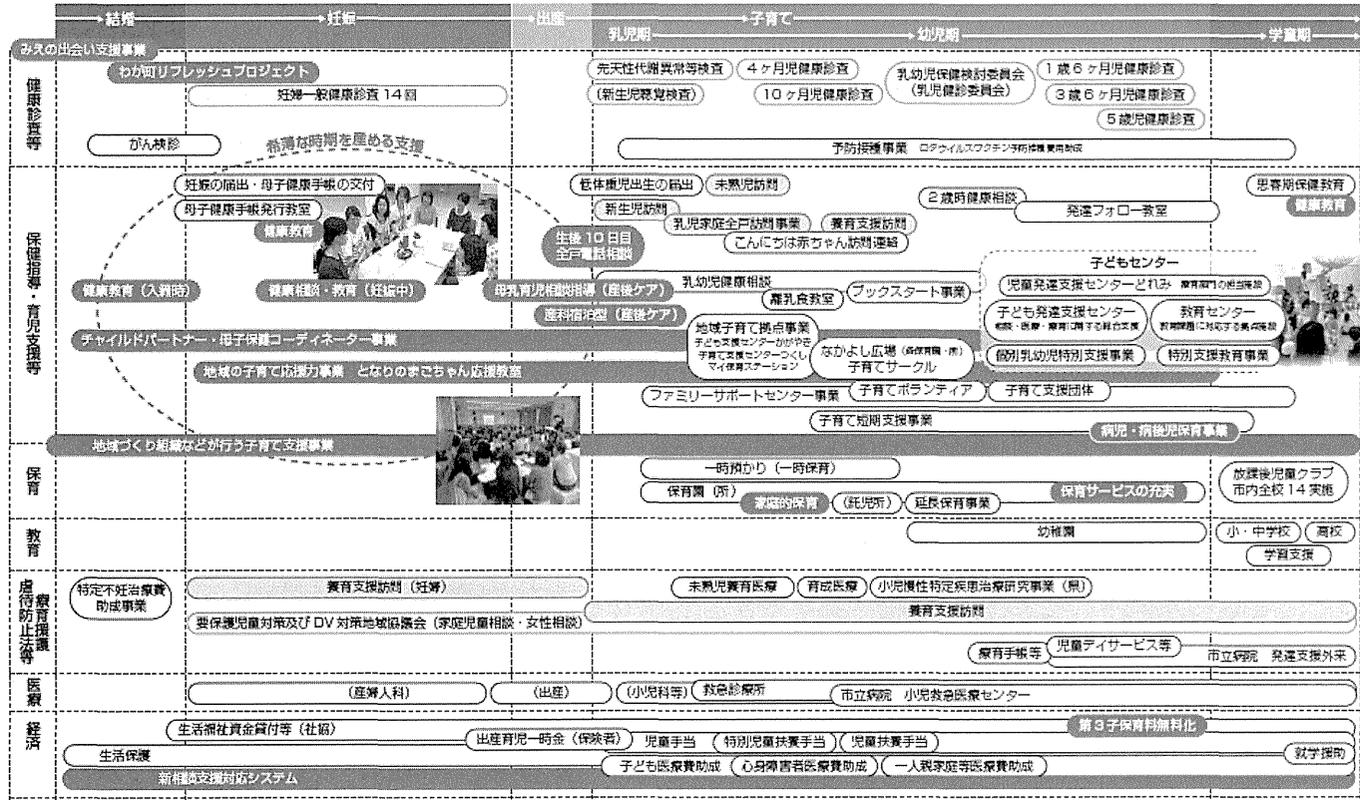
名張版ネウボラは国の2つの補助金を活用し、在宅の助産師をスーパーバイザーとして、保健師（母子保健コーディネーター）や、まちの保健室職員（チャイルドパートナー）とともに地域や保育園、子育て支援拠点事業などと一体感を持った展開を図っています。

また、既存の事業や人材を「つなげる・向上させる・とどける」ことで伴走型の育児支援を目指しています。地域の子育て応援力事業では、地域に資源として存在しているしくみ（15の地域に16ある子育て広場等）や人（民間の保育園も含む）を顔の見える関係として交流させることで、チームでネウボラを実現するのだと実感させることが出来、そこから、行政では実現できていないサービスを地域づくり組織の中で生み出そうという行動も出てきました。そして、既存事業にないものは「つくる」ことでより切れ目のない支援を目指しています。



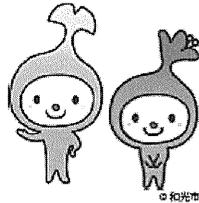
### 5. 名張版ネウボラ全体図

行政のかかりが希薄な時期に事業（ネウボラとなる場）を生みだし、母子保健コーディネーターが中心にニーズ把握を行いながら既存事業と連携させる。様々な主体と検討を重ね、担い手の育成を行う。



## 5

わこう  
埼玉県和光市の事例



## 1. はじめに

和光市では、保健、医療、福祉が一体的に提供される地域包括ケアシステムの一環として、わこう版ネウボラを実施しています。相談支援となるケアマネジメントと子育て支援サービスを確立します。

## わこう版ネウボラでさらに強くなった3つの子育て支援事業

- ①母子保健相談支援事業（母子保健手帳交付）
- ②産後ケア事業（個別型支援）
- ③産前・産後サポート事業（集団型グループ支援）

## 2. 「わこう版ネウボラ」を導入した経緯やきっかけ

和光市の子どもを取り巻く現状と課題は、人口の流動が多く核家族化が進んで、母親と子どもが孤立してしまうことです。

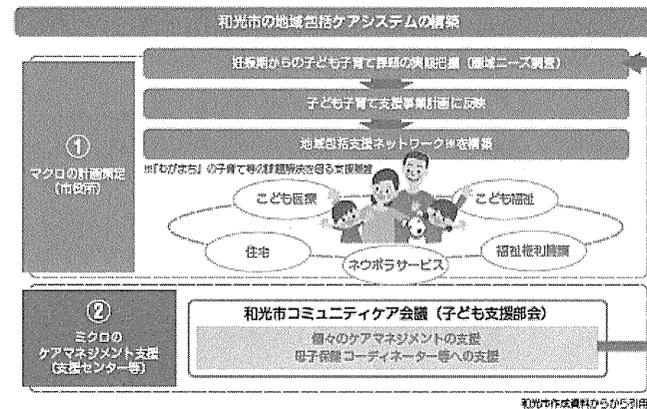
今までは、集団的な赤ちゃん健診により、支援が必要な人を把握し、一定の支援ができていましたが、支援が行き届かない家庭があることも分かってきました。そこで、**「母親の妊娠期から関わるべきである」と**

という考えになっていきました。

そこでまず母子健康手帳について、今までは戸籍住民課が妊娠届が提出されると事務的に母子手帳を交付するスタイルでしたが、母子保健コーディネーターが配置されている子育て支援センターで交付すると共に、保護者にヒアリングを行い、抱えている課題を明らかにしていき、妊娠初期から出産後の家庭が抱える課題まで解決していこうと取り組みを始めました。

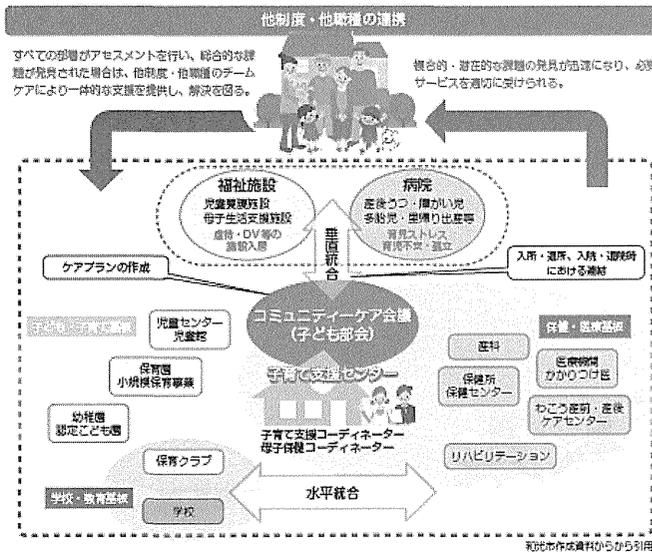
## 3. 「妊娠期からの切れ目のない支援～わこう版ネウボラ～」の内容や特徴

和光市の子育て支援「和光版ネウボラ」ですが、その前段に介護保険の世界で取り組まれている「地域包括ケアシステム」が模範になっています。



このシステムでは、プランニングを行うケアマネージャーや地域包括ケアセンターの職員が存在し、実際に高齢者と接するホームヘルパーや医者などがひとつのチームとなり支援します。今までは、ホームヘルパーが個別に支援したり、医者が個別に診療したりする縦割り構造となっていたため連携が難しい場面もありました。そこで縦割りでの支援を排除して、チームとなって支援をする「包括ケア」が始まりました。その背景から、和光市では支援対象を子どもに向けていきました。

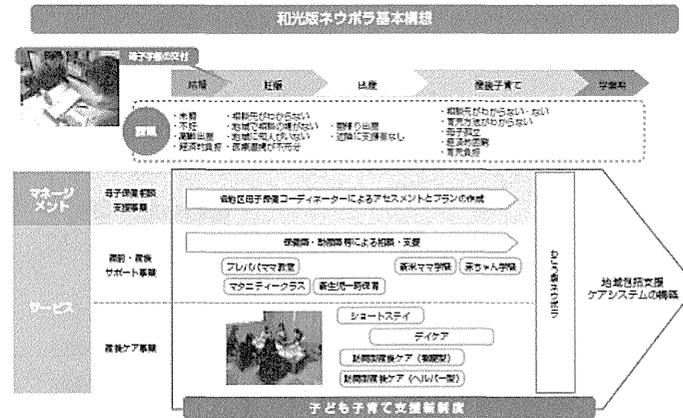
それぞれの家庭に対して個別に支援ができるようになったことが「わこう版ネウボラ」の第一歩です。きちんとしたケアを行うためのプランを作



り、そのプランに基づいて課題を解決するための個別支援を行います。妊娠から出産、小学校入学までを、個別に支援することが最大の特徴です。

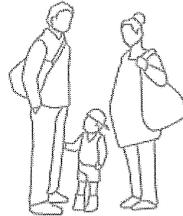
#### 4. 「わこう版ネウボラ」これからの展望

和光市では、支援の究極のゴールは、出生率が上がっていくことです。今後も結婚や妊娠の段階で、様々な支援が必要になってくることが予測されます。ネウボラという支援サービスがあることを、20代、30代に周知し、広めていくことが大切です。そして、大きな意味では「生活・暮らし・子育て」に対する、より良い環境を提供していくことがこれからの和光市の展望です。



# 6

## 子ども・子育て支援新制度について



### 1. 子ども・子育て支援新制度

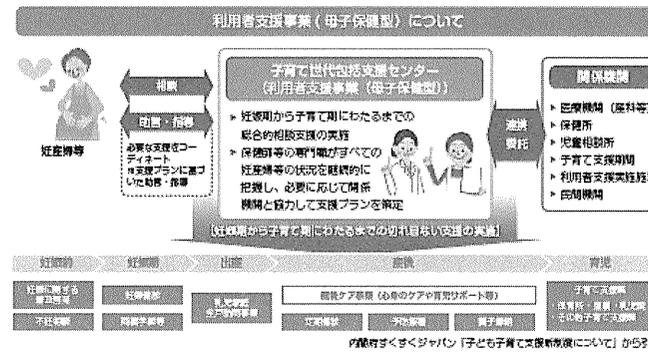
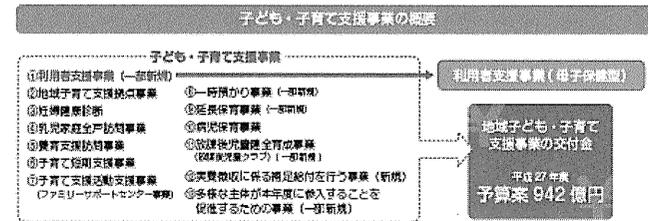
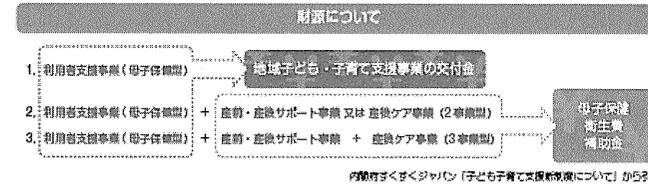
この制度は、項目3で紹介した「母子保健政策の拠点がソーシャル・キャピタルの醸成を担う理由」の中の「産前産後ケア施設」を活用することにも繋がってきます。

「日本版ネウボラ」という形でも触れましたが「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」をワンストップで支援する拠点（子育て世代包括支援センター）を創設する制度です。

いま、内閣府、厚労省、文科省でそれぞれに、子ども・子育て関係に予算をつけています。中でも内閣府が打ち出した「子ども・子育て支援制度」の施工（平成27年度4月予定）では、交付金が平成27年度は予算案942億円となっています。

その背景には、平成26年度に実施している「妊娠・出産包括支援モデル事業」（母子保健相談支援事業）が平成27年度から「子育て支援包括支援センター」として全国展開を目指す方向性が打ち出されました。そこで新たに創設された、「利用者支援事業（母子保健型）」が、平成27年度から本格実施されることになりました。

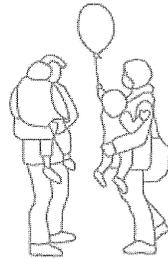
それでは、利用者支援事業とその財源について、図にまとめてみました。





## 8

## さいごに



日本では昔から子どもは地域の宝だという考えがあります。今後は、地域の文化や生活の特徴、さらには利用できる資源を活かして、それぞれの地域に合った、妊娠・出産、子育ての切れ目ない包括的な支援を広げていくことが望まれます。そこにはソーシャル・キャピタル（社会的資本）の醸成が必要不可欠と言えます。ソーシャル・キャピタルの要素は「信頼・互酬性・ネットワーク」と言われています。地域での関係相を高めていくソーシャル・キャピタルの醸成は、まずその核となる母子の愛着形成を支え、継続的に包括的に支援することだと思います。

今、子ども子育て支援新制度でもご紹介したとおり、国の政策は、産前産後ケアの重要性に着目しており、補助金にも多くの予算が付けられています。そしてさらに、名張市や和光市のように自治体主導での政策の推進が現在求められています。

少子高齢化が進む現在、少しでも子育てがしやすい社会、ソーシャル・キャピタルの醸成を目指した地域づくりを進めていくために「妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」をワンストップで支援する拠点（子育て世代包括支援センター）としての産前産後ケアセンターの必要性を広めていければと思っています。

産前・産後ケアを重視することは、ソーシャル・キャピタルを醸成することに繋がります。人は沢山のひとと巡り合い、その中で生きるためのメッセージを受け取り、成長していきます。妊娠から子育てまでの長い道のりの間、母親と子ども

が生き生きと自分の可能性を広げ、育っていくための条件として、人と人の信頼に結ばれた社会をいかに創り出していか、その源を産前・産後ケアから創ることが大事なのではないでしょうか。

この手引書が全国の産前産後ケアセンター（子育て世代包括支援センター）設立の一翼を担える手助けになればと願っています。

研究代表者 福島 富士子

## 参照

内閣府子ども・子育て支援新制度 すくすくジャパン

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/index.html>

妊娠から出産、子育てまでの切れ目ない支援のあり方について  
～日本版「ネウボラ」構想～

## 参考資料

### 3. フィンランド視察資料

## フィンランドにおけるネウボラ視察

1. 費用	平成 26 年度厚生労働科学研究費助成事業
2. 研究事業名	健康安全・危機管理対策総合研究事業
3. 研究課題名	健康なまちづくりのためのソーシャル・キャピタル形成手法を活用した介入実証と評価に関する研究
4. 視察者	福島富士子 東邦大学看護学部 松峯 寿美 東峯サライ 濱脇 文子 東峯サライ
5. 視察目的	フィンランドの切れ目ない妊娠出産子育てシステムの視察

## フィンランド視察工程

2015 年

- 1 月 6 日 成田よりフィンランドヘルシンキへ
- 1 月 7 日 午前 タンペレへ移動  
午後 タンペレにて関係者打合せ
- 1 月 8 日 午前 タンペレ大学産婦人科、ペイシエントホテル  
午後 タンペレ市ネウボラ施設見学
- 1 月 9 日 午前 ヘルシンキ市ネウボラ施設見学  
午後 施設関係者と意見交換
- 1 月 10 日 午前 移動  
午後 性と健康の博物館視察
- 1 月 11 日 午前 ヘルシンキ大学視察  
午後 移動
- 1 月 12 日 ヘルシンキから成田へ移動



タンペレ病院



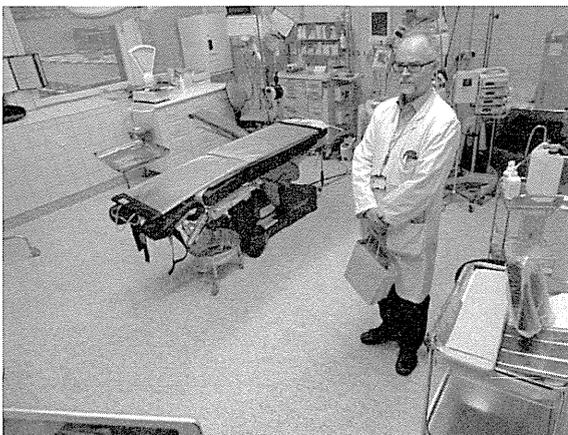
タンペレ産科病棟



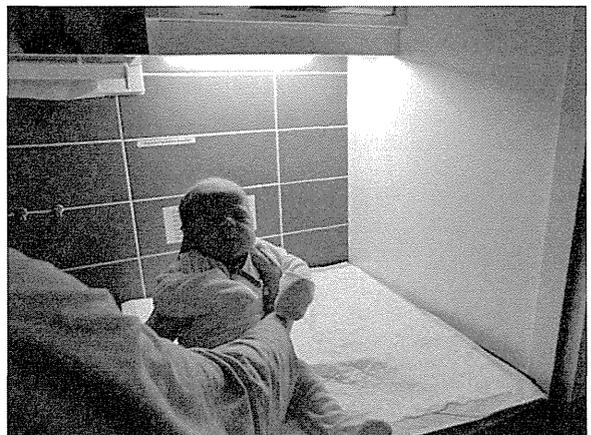
タンペレ産科病棟



タンペレ産科病棟



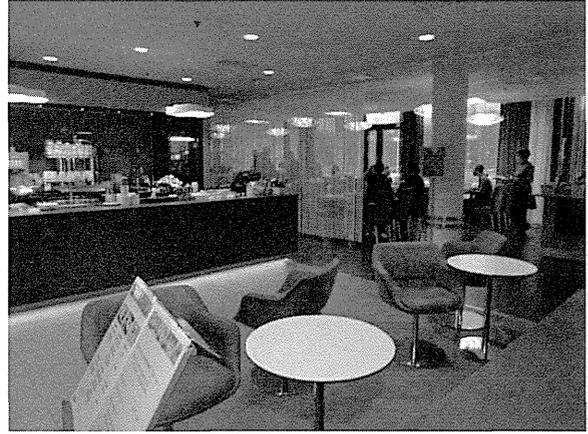
タンペレ産科病棟



タンペレ産科病棟



タンペレ産科病棟



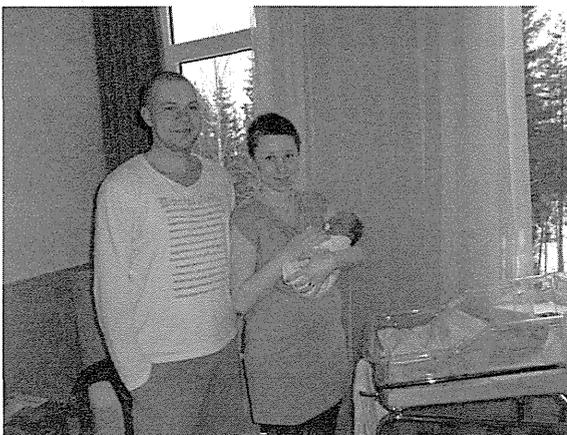
ペイシェントホテル



ペイシェントホテル



ペイシェントホテル



ペイシェントホテル



ペイシェントホテル



タンペレ市小児精神科病院



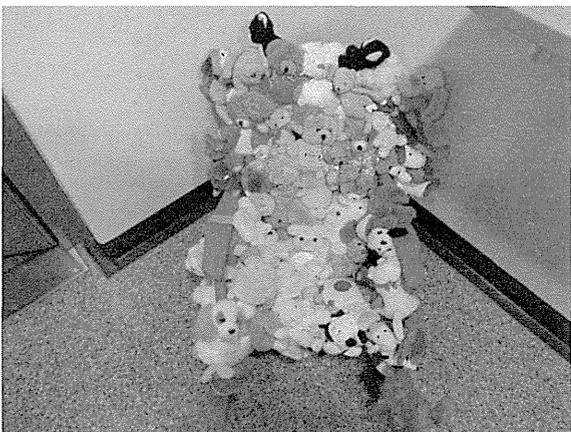
タンペレ市小児精神科病院



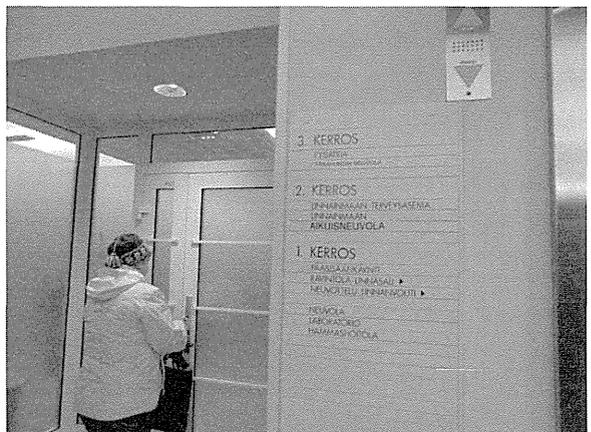
タンペレ市小児精神科病院



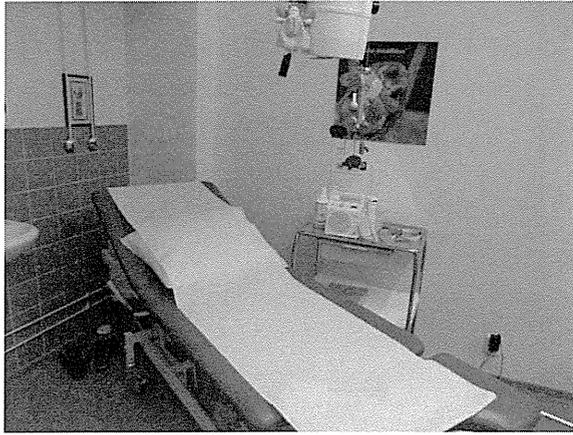
タンペレ市ネウボラ



タンペレ市小児精神科病院



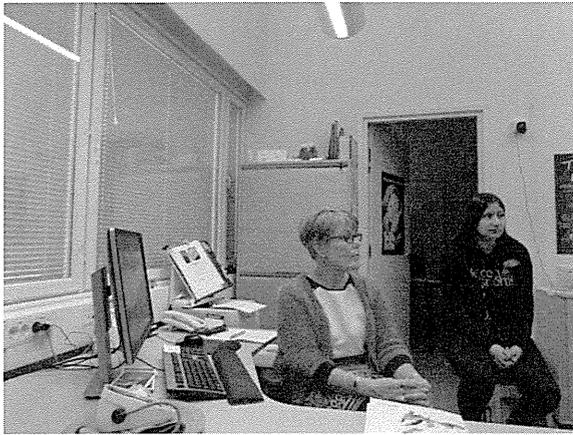
タンペレ市ネウボラ



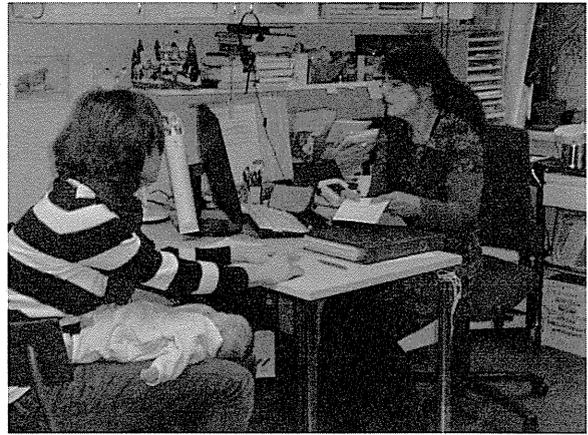
タンペレ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



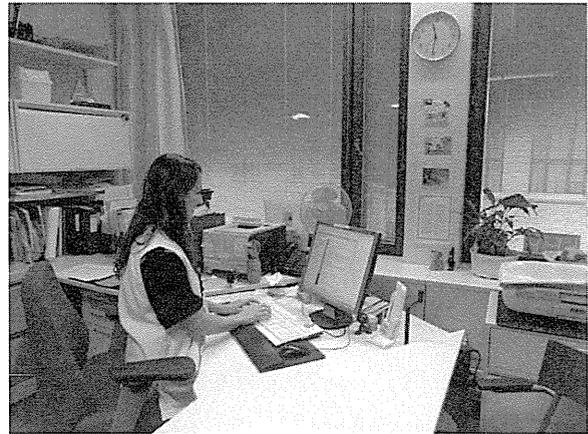
タンペレ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



ヘルシンキ市ネウボラ



エストニア 性と健康の博物館



ヘルシンキ市ネウボラ



エストニア 性と健康の博物館

## 參考資料

### 4. 研究發表